

社協評価事業（社協力向上プロジェクト事業）総括評価

社協名	社会福祉法人 山陽小野田市社会福祉協議会
第三者評価日	平成30年11月6日（火）
現時点の社協力	<p>（第三者評価者の視点）「社協の現在の姿の一部」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社協事務局及び施設で3つの拠点に分かれているが、管理職で構成される連絡会を組織し、横断的な情報共有を行っているほか、イントラネット、クラウド会計ソフトの配備により、組織内での現状認識の共有が図られている。 ・行政の地域福祉計画と一体化して、地域福祉活動計画を策定しており、行政と連携した地域福祉活動の展開ができる体制は整っている。 ・三者交流会及び「どうしちよるネット」による、住民同士の支え合いの場づくりが行われている。 ・三者交流会や「どうしちよるネット」で福祉員の役割を明確にすることで、活動の活発化を図っている。
	<p>（山陽小野田市社協側の視点）「強み：PRポイント」</p> <p>地域福祉計画と地域福祉活動計画を一体的に作成するなど、行政と連携して地域福祉施策を進めている。また、三者交流会を定期的で開催し、住民主体の地域見守り活動「どうしちよるネット」を展開し、生活支援体制整備につながる地域基盤ができている。</p>
3年後にめざす社協像	<p>善意銀行に加えた新たな財源確保を行い、経営安定を目指す。</p> <p>市社協の経営理念、経営方針のもと、全職員が社協職員としての自覚を持ち、地域住民から信頼される社協を目指す。</p>
社協力向上経過レポート	<p>（令和元年度）</p> <p>《実施状況》</p> <p>（1）生活支援体制整備事業を山陽小野田市から受託し、「どうしちよるネット」のネットワークを活用して、生活支援サービスの提供を行うことができるような仕組みをつくる。</p> <p>（2）計画的なキャリアパス研修を行う。</p> <p>《成果》</p> <p>（1）「どうしちよるネット」は、見守りを目的としたネットワークであるが、これまで構築したネットワークを生活支援体制整備事業の助け合い活動につなぐことが可能となった。</p> <p>（2）県研修センターの実施計画に沿って、中期的な研修計画を作成し、実施した。受講者本人のスキルアップが期待できる上、法人としても職員研修の重要性を認識する機会となった。</p>

(令和2年度)

《実施状況》

(1) 新型コロナウイルス感染拡大により地域福祉の推進が停滞しないよう、「支え合い活動ガイドブック」等、活動ガイドラインを作成することで、新しい日常に対応した福祉活動の支援に努めた。

小地域福祉活動支援事業により、積極的に福祉活動に取り組む地区の支援を行った。

(2) 新型コロナウイルスの感染拡大防止に配慮した街頭募金のガイドラインを作成し、安全な街頭募金活動の指針を示した。

(3) 研修会場に行かずに、職場で研修が受けられるオンライン研修を活用するように努めた。

《成果》

(1) コロナ禍であるが、小地域福祉活動支援事業に取り組む地区が増加した。また、有償助け合い活動についても理解が深まり、活動を開始した地区も増加した。

(2) ガイドライン沿って、安全な街頭募金活動をおこなった。

(3) 研修会場への移動が必要で無くなり、遠方の会場での研修もリモートで受講できるようになったため、様々な内容の研修が受講可能になり、受講回数も増加した。

(令和3年度)

《実施状況》

(1) 見守りネットワークを活用した高齢者の支援体制の整備を行った。

(2) 新型コロナウイルス感染予防対策により、チャリティイベントが開催できないため、羽毛布団の回収等、他の財源確保を行った。

(3) オンライン研修を活用した。

《成果》

(1) 高齢者に対する地域の支援体制の必要性について理解が深まった。

(2) イベント以外の財源確保の実績が徐々に増加している。

(3) 遠隔地の研修の参加も容易になった為、様々な研修に参加が可能となり、職員の資質向上につながった。